

2015年10月20日

11月2日(月)・3日(火・祝)

トーク&コンサート@松山大学へのご招待

(参加費は無料、どなたでも参加できます。事前申込も不要です。)

(問い合わせ先：黒田晴之 kuroda [atmark] cc.matsuyama-u.ac.jp)

“あなたと音楽と記憶と – You and the Music and the Memory”

【趣 旨】

わたしたちが音楽と関わる時、なにがそこで起きているのか。

小さいときに聴いた音楽。親が歌ってくれた歌。テレビから流れてきた歌。教室で習った歌や曲。路上でふと耳にした音楽。

自分が意識して聴いた音楽。歴史の篩いを経てきた音楽。

たとえば黒人の音楽を聴く。あるいはユダヤの音楽を聴く。

純粹に音楽としてのみ楽しむ。ある個人のメッセージを受け取る。あるグループの文化を理解する。あるいはそれらを拒む。

記憶の伝承とその忘却。懐かしい記憶。忌まわしい記憶。自分の個人的な記憶。あるいは世代の記憶。さらには民族の記憶。

受動的に聴く音楽。主体的に発信する音楽。

人間の一生の営みと音楽との関係。広島とそれに関わる音楽との関係。歴史のなかの個人と音楽との関係。

こうしたことを参加者の皆さんと、松山で考え直す機会を持ちたい。

■11月2日■松山大学8号館845教室■

17時15分～ 開場

17時45分～ トーク：狩谷美穂「誘う音楽、誘われる人間～音楽療法の現場より～」

18時15分～ 休憩

18時30分～ コンサート：ジントラムータ(Jinta-la-Mvta)

(ちんどんの定番「天然の美」、ヴィクトル・ハラ「平和に生きる権利」、ユダヤの曲などを演奏予定)

■11月3日■松山大学5号館522教室■

10時00分～ トーク：黒田晴之「東欧ユダヤ人・ギリシア人の音楽をめぐる状況」

10時30分～ トーク：Joshua D. Pilzer「音楽の境界、社会の境界：ポストコロニアル韓国の生存者」

11時00分～ トーク：東 琢磨「(<ヒロシマ>をフィルターにして)音楽の凝りをもみほぐす」

11時30分～ ディスカッション

■講師・バンドのプロフィール■

狩谷美穂：NY留学中に音楽療法と出会い、Lesley University 大学院にて音楽療法、表現芸術療法を学ぶ。卒業後は米国の精神科病院、障害児施設にて音楽療法士として勤務。現在、サルサバンド『El Combo de la Paz』フルート奏者、ドラムサークルファシリテーター、エトワール西条病院音楽療法士として活動中。

ジンタらムータ：チンドン・ジンタをバックボーンに世界の街頭音楽を演奏するジャンル無用の楽団。クレズマーにも造詣が深く 2015 年のニューヨーク・ユダヤ文化フェスに出演。近年の脱原発や憲法集会でもおなじみ。小熊英二監督の『首相官邸の前で』(<http://www.uplink.co.jp/kanteimae/>)など映画音楽多数。オフィシャル・サイト <http://www.cicala-mvta.com/>。メンバー：大熊ワタル(クラリネット)、こぐれみわぞう(チンドン太鼓、歌)、服部夏樹(ギター)、Gideon JUCKES/ギデオン・ジュークス(チューバ)。

黒田晴之：松山大学教授(ドイツ語)、ドイツ文学・ユダヤ音楽を研究。著書に『クレズマーの文化史』(人文書院)。

Joshua D. Pilzer：トロント大学准教授、音楽民俗学を研究。著書に Hearts of Pine: Songs in the Lives of Three Korean Survivors of the Japanese "Comfort Women" (Oxford University Press)。

東 琢磨：広島から音楽について盛んな執筆活動ががんがん継続中。著書に『ヒロシマ・ノワール』(インパクト出版会)、『ヒロシマ独立論』(青土社)など多数。

主催：科研基盤研究C(研究課題番号：24617025)「アメリカにおける移民音楽の相互作用、東欧・南欧・(旧)オスマン帝国出身者を中心に」(代表者：黒田晴之)

協力：松山大学フォークソング部



写真：石田昌隆(©)



写真：烏賀陽弘道(©)